

各地区業況アンケート結果（2022年6月調査分）

（2022年6月24日）

全国鉄鋼販売業連合会

日頃より当会へのご協力厚く御礼申し上げます。さて、6月23日締切で、当会役員141名に対しこのアンケートを行ったところ73名の回答があり（回答率51.8%）その結果が下記のとおりまとまりましたのでご報告致します。なお、本結果は鉄流懇など重要会議に資料として提出しています。DI = (A×2+B×1-D×1-E×2) ÷ 総回答数×100、(数は回答実数)

1. 数量前年同月比増の企業は約3割

問1】貴社の5月（先月）総売上数量・総売上金額は、前年同月と比し如何でしたか？（答）

	A. 10%以上増	B. 5%以上増	C. ほぼ横這い	D. 5%以上減	E. 10%以上減	計	前回
売上数量/前年同月比	8	14	26	11	13	72	81
比率	11%	20%	36%	15%	18%	DI-10	DI-2
売上金額/前年同月比	41	12	13	4	3	73	82
比率	56%	16%	18%	6%	4%	DI+115	DI+107

2. 収益良好も前月より若干落ちる

問2】貴社の5月（先月）の鉄鋼部門における企業収益状況は、如何ですか？（答）

	A. 黒字	B. 若干黒字	C. 収支トントン	D. 若干赤字	E. 赤字	計	前回
企業収益状況	27	18	17	9	1	72	82
比率	38%	25%	24%	12%	1%	DI+85	DI+104

3. いまだ低調な販売続く

問3】貴社の営業窓口から見て6月（今月）の販売量は、前月に比し如何ですか？（答）

	A. かなり増加	B. やや増加	C. ほぼ横這い	D. やや減少	E. かなり減少	計	DI	前回
公共建設向	1	4	30	10	4	49	-24	-42
民間建設向		14	28	12	4	58	-10	-30
自動車向		2	16	10	6	34	-59	-60
その他需要家向		10	33	13	4	60	-18	-16
仲間取引		3	27	21	6	57	-53	-32
計	1	33	134	66	24	258	-31	-34
比率	0%	13%	52%	26%	9%			

4. 今後盛り上がる気配なく期待薄

問4】貴社における向う7月から9月までの需要動向について貴殿の予測は如何ですか？（答）

	A. 増加	B. 微増	C. ほぼ横這い	D. 微減	E. 減少	計	前回
短期需要動向予測	2	21	34	12	4	73	82
比率	3%	29%	47%	16%	5%	DI+7	DI-10

5. 鋼板類過剰気味傾向

問5】下記主要品種の貴地区市場の需給状況は如何ですか？貴社の取扱品種のみについてご記入ください。(答)

6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	品種別	A	B	C	D	E		6月
D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	D I	需給状況	非常に不足	不足気味	需給均衡	過剰気味	非常に過剰	計	D I
-14	-9	3	-10	-3	-6	-15	-17	-10	-10	-10	-3	鉄筋用丸鋼		1	20	4		25	-12
4	14	25	14	11	6	-3	-7	-3	-14	-23	-7	構造用丸鋼			24	4		28	-14
0	11	21	6	6	6	-10	-9	-9	-10	-6	-11	平角鋼			25	5		30	-17
23	33	48	41	43	35	20	7	0	-10	-7	0	H形鋼		4	22	3		29	3
83	125	140	142	150	139	88	91	13	19	30	39	コラム		7	12	1		20	30
-6	3	8	9	3	6	-11	-6	-15	-21	-11	-26	小形山形鋼			21	9		30	-30
-9	3	9	9	8	3	-11	-6	-18	-21	-12	-22	中形山形鋼		1	20	7	1	29	-28
-16	6	8	9	11	6	0	-6	-9	-9	-15	-19	溝形鋼			22	8		30	-27
39	50	73	68	65	34	19	0	0	-4	-10	-6	軽量形鋼C形			23	4		27	-15
17	39	63	33	39	27	-5	6	0	-6	0	0	軽量形鋼広巾			13	2		15	-13
162	166	158	123	110	79	45	24	3	-41	-39	-33	冷延薄板			13	13	1	27	-56
133	133	118	103	83	53	35	17	-17	-33	-20	-23	熱延薄板			18	14		32	-44
163	162	145	133	127	97	59	47	21	-24	-30	-26	表面処理鋼板		1	18	12	1	32	-41
168	169	164	126	109	80	47	15	-15	-27	-35	-31	酸洗鋼板		1	12	13	2	28	-57
116	113	114	100	76	43	30	10	-13	-18	-14	-9	中板			24	12		36	-33
76	102	95	90	83	67	53	26	-3	-5	-10	-23	厚板		1	26	9	1	37	-27
67	70	86	68	68	52	35	26	9	18	-6	-17	極厚板		2	12	3		17	-6
43	64	41	52	41	33	7	14	3	-7	-3	-13	縞板			20	6		26	-23
47	57	73	83	71	64	21	16	0	-3	-3	6	中径角		2	25	3		30	-3
32	42	58	58	32	38	23	6	-3	0	-14	-6	ガス管黒		2	26	4		32	-6
29	49	61	61	39	38	19	13	0	0	-9	-3	構造用鋼管		1	27	3		31	-6
57	70	72	64	55	43	21	12	-4	-12	-13	-13	計	0	23	423	139	6	591	-22

6. 建築需要は大型と中小二極化の様相

問6】貴社の地域の景況、主力取扱品種の需要動向は如何ですか？地域の特殊事情・需要動向・信用問題などを織り交ぜて、概況をお知らせください。(答え)

北海道	A	中小物件が少なく、非常に厳しい。
	B	(形鋼) 荷動きは盛り上りなく落ち着いている。その中で段階的に値上げを継続中である。大型物件はあるが、中小物件の引合いが少なく決まりも悪い状況。ここへきて追い打ちをかけるような高炉メーカーの値上げはきつい。
	C	スクラップの急下落が心配。丸棒メーカーとしては変わらず強含み。需要家からは値下げの要請すらある状況。板挟みの市況が続く。
	D	取引先によって仕事にムラがある。地場だけに頼っているところは仕事が薄い。鉄筋加工業者やプラント関連も少ない。
東北		高炉の値上げ大きいのに対し、スクラップ価格が下がっており価格転嫁が厳しい。また、民間物件が出始めているが、地方での案件が少ないことからゼネコンの落札金額も叩き合いの傾向にあり、指値も厳しくなっている。

新潟	A	荷動きはまだ鈍いと感じている。建築物件も二極化で、地元では設計事務所で取り掛かったが、中断になるケースもあるようだ。スクラップ価格の下落が非常に気掛かりである。
	B	値上げアナウンスが止まらない中、お客によって仕事の有無問題が出てきている。価格転嫁をしっかりとしていきたい。
	C	価格転嫁。
	D	お盆頃までは建築物件は見通せるが、それから先は不透明である。H形鋼はロール納期が遅れ気味になっているため市中在庫が少なくなるのではないかと。
	E	先々の需要が細ってきている。鋼材価格高騰の影響もあるが、鋼材以外の資材高騰と入手難の影響も大きい。
	F	ファブの需要は堅調に推移しているが、製造業向けの低迷が続いている。高炉メーカーの値上げにより転嫁活用も必要だが、需要が弱いだけに難航することが予想される。
神奈川	A	トラック、ダンプ分野が前月比大きく落ち込んだ。背景として慢性的な半導体、部品供給問題、シャーシ入荷が読めず、暫くはこの状況が続くそうである。高炉をはじめとする大幅値上げを受け、上げ局面も荷動き悪く交渉に苦戦している。
	B	材料費の値上げが止まらない中、今後の需要に不安あり。また先の予想が立てがたい状況が続いている。
	C	昨年に続き、高炉メーカーの値上げが発表され、コイル製品も今月から値上げを実施。今後、数ヶ月はメーカー値上げ分を転嫁せざるをえない状況になり、問題は計画された案件が遅れ気味になることが予想される。
東京	A	前年上期はあまり動きのなかった土木案件の受注があり、好調なスタートで始まった。メーカーからの値上げに対して+ α をして上昇している配送コスト等、物件上昇に伴うコストを補っていきたい。
	B	物流倉庫案件は依然、好調だが、我々のメインの中小建築物件は低調のまま。ただ、メーカーの相次ぐ大幅追加値上げに少しでも安く材料を確保したいのだろうという思いの見積依頼が増えてきたように感じる。しかし、我々としても厚板が上がるのに安い見積りを提出できるはずもなく、成約することは難しい。今はただ、メーカー値上げ分をどのように転嫁していくかで一杯一杯である。
	C	(店売り) 建設機械は引き続き好調にもかかわらず、建機に使用される鋼種も引合いは少ない。(建設機械) ウクライナ問題、半導体、中国のゼロコロナ対策の影響があり、生産も減少している。
	D	自動車案件が諸々な要因で止まってしまっているが、中国のロックダウンがあった影響なのか定かではない。値上げ前の仮需かもしれないが、6～7月頭で多少動きがある予定。
	E	4月最終週から受注が落ち込み5月は全体的にパツとしなかった。
	F	(鉄筋) 3月、4月の反動と少ない稼働日で5月は数字的に厳しいが前年と比べれば良い。6月の受注もそこそこあり、相場も高値のまま続いている。
	G	6月に入り一層の出荷減少、需要家に仕事がない。コロナ前に比べ数量は半減。単価上昇で売上の落込みはそれほど感じないが、トラックも倉庫も全く活気がない。
	H	薄板の店売りについてバブル崩壊、リーマンショック時以上の最悪の荷動きとなっている。
	I	供給(メーカー)の値上げが先行しているが、国内需要(建材関連、店売り)は引き続き低調。仲間売りは必要な量だけを買って、在庫過多を避ける動き。中国、東南アジアがロックダウン解除後、景気回復に向かわない事には日本の景気は良くなるまい。
	J	メーカー値上げの転嫁も重要だが、燃料費、副資材の高騰や運送会社からの値上げ要請などを考えると販売単価の値上げを早急に進めていかなければならない。

東京	K	(平鋼) メーカーが今年に入ってから上げた1万5千円を転嫁中だが、市中の動きは鈍い。一部では仮需も発生したが、現在はその反動もあり、落ち込んでいる。製造業向けも半導体やその他の部品不足により減産調整となり4～6月の荷動きの低下の一因となっている。建築向けも大型物件は動いているが、中小物件は少なく市中在庫の荷動きは悪い。しかし、大型物件に伴う加工品は忙しさを継続しており、7～9月においても継続的に動きが出てくると予想している。今後は高値玉も入り、簿価も上昇してくるが、荷動きが落ち込み、価格転嫁も遅れてくるため利益率悪化が心配される。流通が扱えるような需要が少しでも早く回復してくれる事を期待するが、コロナや戦争の影響が落ち着くには時間がかかるため暫くは我慢の時期だと思われる。
	L	5月の売上高・販売数量ともに前月比で連休の営業日数を上回る減少となった。小口案件が多く運賃負担が強くなっている。売上高は高止まりしているが、売上数量・加工数量が春より減少傾向。6月、7月は傾向として需要が上向くのが例年だが、今年はその基調からかもしれない。
	M	取引の業種により荷動きの差が更に激しい状況となっている。引き続き半導体不足やコネクタ不足により受注している製品も納期変更になる可能性もあり、先行き不透明。
	N	今年度に入り、鉄鋼メーカーが昨年につき、今回も大幅な値上げを実施。それを受けて各流通は7月からの値上げ転嫁を図る。同時に仕入のみならず、エネルギーをはじめとしたコストアップの値上げ転嫁も必要となる。
	O	主力の磨棒鋼は低調。下期の自動車関連に期待したい。
静岡	A	3月期決算のBS、PLに非常に驚いた。鉄鋼商品単価は2桁から3桁へ。中小工事請負価格、中小工務店クラスのS造物件価格ではびっくりするものもあれば、当然というのもあり、どうなっているのかよく分からない。住宅関連は一樣に施主との金銭問題があるようだ。自動車関連の下請業者では鉄鋼メーカーの値上げや契約数量の変動等に伴う需給バランスが崩れ、これらに伴う流通在庫増等、アンバランスな状態ではないか。鉄鋼各メーカーの積み残したという値上げアナウンス、諸物価の値上げ、日銀を始め財政のプロと言われる方々と一般庶民が念頭にある金の考え方に大きな乖離は時世柄、耐えるしかない。自動車関連のサプライチェーンの問題か。不良債権の記事を久々に見た。幸いにも不良債権事故はないが、下期への対応を考えなければならない。物流もさることながら世界経済、NATOLINEの危機に係わらず粛々と前に進んでいる。英女王即位70年、ソ連崩壊30年、沖縄返還50年、ちょうど良い節目にプーチンのこじつけネオナチ排除ウクライナ侵攻。鉄鋼関連に疑問はないのか。
	B	全般的に荷動きは今ひとつで在庫にやや過剰感がある。地区相場も在庫状況を反映し、上げ足は重い。スクラップは下落しているが、値上り玉の入荷が続くため転嫁は待ったなしの状況。薄板は在庫のタイト感とは全くなく需要が盛り上がりながら、仕入の大幅で急激な値上げに対し、客先転嫁の作業は後追い状態が続いている。客先への与信不安も日に日に大きくなっている。
石川	A	再び鉄鋼メーカーの値上げ発表が続いているが、今回はちょっと重い感じであり、流通筋の意識改善にかかっている。モノづくりは堅い基調だが、関連する諸資材の不足で半製品が滞りつつある。ステンレス、アルミは異常な値上げが続いており、諸原材料のタイト感がいつまで続いていくのか少し警戒する必要あり。ウクライナ、ロシア戦争次第となっている。
	B	荷動きが悪いため、価格値上げ案内があっても事前に大量の仕入が出来ない現状。

富山		衛生管理した上でウィズコロナを理解し、各団体事業の総会など、宴席が再開され、営業も活発化し観光地にて人出が増え、経済の回復を肌で感じられるようになった。値上げも各業界あるものの、買占め現象には注意が必要。非鉄、化学薬品等の入手難でプラント設備の遅れとなっているが、一部買い占めが原因とも言われている。
岐阜		物量はやや少ないが、高値なので売上は通常通り。しかし、小物件がないため、倉庫出荷は少ない。価格転嫁も一方的にFAXをばら撒いている。乱暴だろうか。ステンレス屋はそうもいってられないと思う。SUSの使用が減って、メッキ仕様に変更になっているわけでもない。
大阪	A	例年この時期は、売上が伸びない。そう考えなければ悲観的にならなくてもいい。ただ仕事が少ない向かい風が吹く中、値上げを進めていくのは販売をする立場の人たちには過酷だ。そういう点では働く人のメンタルを和らげることを考えていきたい。
	B	(異形棒鋼) 原料 (スクラップ) 価格が下降し、ゼネコンの引合いは止まっている。ゼネコン・工務店の値下げ圧力にメーカーが対応せず、流通の採算が悪化している。中小向け案件は力強さなく、今後も横ばいで推移すると思われる。
岡山		昨年末から鉄骨、ボルト屋等、倒産3件あり。すべて建屋に係わる所である。先行きが不安。
北九州		倉の平均簿価が上がっている。荷動きが低調なため倉出し価格が上がらないという悪い状況にある。
福岡	A	原料高騰による鋼材の大幅値上げは需要を乖離しており、異常な状況で流通にとっては非常に苦しい展開が続いている。メーカーの足並みとひも付き価格の早期転嫁に期待。
	B	メーカーの値上がりが継続中で、仕事量も少ないのでユーザーも価格転嫁できずに厳しい状況が続いている。今まで以上に与信を管理する必要がある。